



## 間引き、整枝、摘葉

板木技術士事務所 ● 板木利隆

畑にじかに種子をまいたり、苗作りで育苗箱にまいたりする場合、通常は厚まきにするため、発芽すると密生状態になります。小さいうちは、密生している方が「共育ち（共存）」の現象で、お互いにかばい合っよく育つものです。

しかし、そのまま密生にしておくとお互いに「競合（競争）」し合い、全てが軟弱徒長状態になってしまいます。そのため間引きをして適当な間隔を与えてやる必要があります。

間引きは1回で済ませるのではなく、育ちにに応じて2〜3回行うのが生育にとって合理的です。ダイコンの例は図示した通り、本葉1枚のころと、3〜4枚のころ、6〜7枚のころと、3回行うのがよいでしょう

う。1回目は子葉の形に注意し、異常に大き過ぎたり、不整形のものは根が変形したりしやすいので、除外して整った形の株を残すよう注意しましょう。ニンジンも部分的に密生しやすいので、遅れないよう丁寧に間引きをすることが大切です。いつまでも込み過ぎていると根の肥大を大きく損ね、形の悪いものになってしまいます。

良質の果実をたくさん収穫したい果菜類は、摘心、整枝、摘葉を適切に行い枝の配置を良くし、各葉に太陽光を十分に与え、果実の付く位置や、着果数に応じた健全な葉数を確保することが大変重要です。

通常主枝一本仕立て（トマト）、主枝十側枝二〜三本仕立て（ナス、

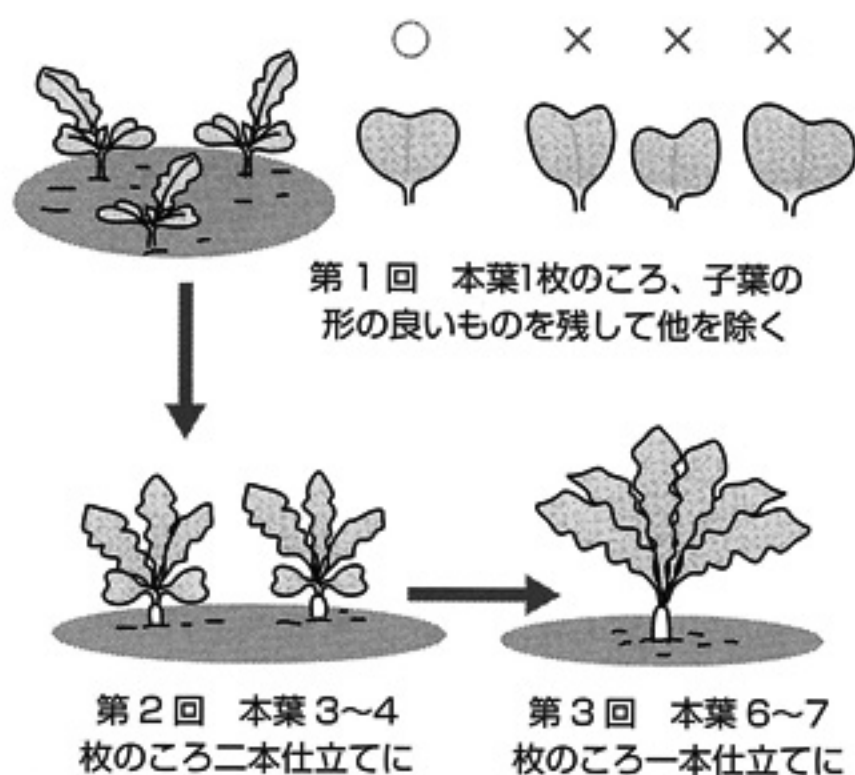
ピーマン、スイカ、メロン、カボチャ）、主枝十子つる十孫つる（キュウリ）など、種類別の整枝法をよく理解して、時期を逸せず入念に行うことが大切です。

また、茎葉が盛んに伸び、各葉が込み合うようになったら、老化した葉や陰の葉、病害虫にかかった葉は適宜摘葉して、畝内の通風、採光を良くしてやりましょう。

内側に伸び、葉の込み合いをひどくしている側枝は、茎の中ほどから切り取ることも必要です。

なり盛りを過ぎ、弱った株の勢いを回復する積極的な整枝、摘葉法として、これから行うナスの更新剪定（せんでい）を参考までに図に示しました。（16W×54L）

### ダイコンの間引き



### ナスの更新剪定と摘葉



なり疲れが出たら、思い切って枝を切り込み摘葉して秋ナス取りを狙う

